

第62回宝塚記念(GI)優勝馬クロノジェネシス



女王の風格でグランプリ3連覇

圧巻の強さで連覇を達成。有馬記念を含めたファン投票レース、いわゆる「グランプリ」3連覇は、牝馬としては史上初の快挙となった。

前年、このレースを6馬身差で圧勝して驚かせたクロノジェネシスは、暮れには有馬記念も制してJRA賞特別賞を受賞した。5歳となった2021年は初戦のドバイシーマクラシックで仏ダービー馬ミシュリフのクビ差2着。この宝塚記念をファン投票1位、単勝1.8倍の1番人気で迎えていた。

レースを引っ張ったのは、前走の鳴尾記念を逃げ切っているユニコーンライオンだった。2番手がデビューから無傷の6連勝で大阪杯を制し、2番人気に推されている牝馬レイバパレ。それをマークするようにクロノジェネシスは4、5番手を進んだ。

直線に入ると、さらに伸びようとするユニコーンライオンにレイバパレが並びかけ、2頭で並んで後続を離していく。そこへ猛然と迫ったのがクロノジェネシスだった。残り200m付近でクリストフルメール騎手がゴーサインを送ると、瞬時に反応して差を詰めていく。素晴らしい加速であっという間に2頭を交わし、そのまま2馬身半の決定的な差を付けてゴール。まさに貫禄の強さだった。

デビューからずっと手綱を取ってきた北村友一騎手が5月に落馬負傷したことでコンビを組むこととなったルメール騎手。レース後には「友一くん、あなたの気持ちはよく分かっています。クロノジェネシスは本当に強かった。あなたのおかげで5歳でもまたGIで頑張ってくれました」と、リハビリ中の北村騎手へメッセージを送った。

齊藤崇史調教師は、ドバイからの帰国後にクロノジェネシスの馬体重が大きく減り「宝塚記念に間に合わないかもしれない」と思ったこともあったという。「ホッとしました。いろんな不安要素があった中で勝ててよかったです」と安堵した。

宝塚記念の連覇はゴールドシップに次いで史上2頭目、ファン投票レースの3連覇はスピードシンボリ、グラスワンダーに次いで史上3頭目。まさに歴史的な快挙を達成した勝利をステップとして、クロノジェネシスは同年秋、凱旋門賞に挑戦することとなる。



▲ユニコーンライオン(帽色・白)を先頭に馬群が4コーナーを回る。



▶ファン投票1位&単勝1番人気馬の勝利は史上13度目。

第62回宝塚記念(GI)

6/27 阪神競馬場 2200m(芝・右) 晴・良 13頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	クロノジェネシス	牝	5	56	C.ルメール	齊藤 崇史	2:10.9	①	④④③④
2	ユニコーンライオン	牡	5	58	坂井 瑠星	矢作 芳人	2 1/2	⑦	①①①①①
3	レイバパレ	牝	4	56	川田 将雅	高野 友和	クビ	②	②②②②
4	カレンブーケドール	牝	5	56	戸崎 圭太	国枝 栄	2	③	⑤⑥⑥④
5	キセキ	牡	7	58	福永 祐一	辻野 泰之	2 1/2	⑤	②②③②
6	ミスマンマミーア	牝	6	56	岩田 望来	寺島 良	クビ	⑨	⑫⑫⑫⑫
7	カテナ	牡	7	58	浜中 俊	中竹 和也	クビ	⑧	⑬⑬⑬⑬
8	モズベッコ	牡	5	58	池添 謙一	森田 直行	ハナ	⑥	⑧⑧⑥④
9	アリストテレス	牡	4	58	武 豊	音無 秀孝	1 1/4	④	⑦⑥⑥⑧
10	ワイプティアーズ	牡	6	58	和田 竜二	加用 正	2 1/2	⑬	⑤④③④
11	メロディーレーン	牝	5	56	幸 英明	森田 直行	アタマ	⑩	⑩⑩⑩⑩
12	アドマイヤアルバ	騾	6	58	酒井 学	柄崎 孝	3 1/2	⑫	⑪⑪⑪⑫
13	シロニイ	牡	7	58	松若 風馬	池江 泰寿	1 1/4	⑪	⑧⑥⑥⑨

単勝 ⑦180円 複勝 ⑦110円 ①350円 ②140円 枠連(1-5) 3,030円
馬連 ①-⑦2,780円 馬単 ⑦-①3,930円 ワイド ①-⑦920円 ②-⑦200円 ①-②1,170円
3連複 ①-②-⑦2,200円 3連単 ⑦-①-②13,340円

ハロンタイム 12.3-11.2-11.6-12.4-12.5-12.4-12.3-11.5-11.5-11.7
通過タイム 600m ③5.1-800m ④7.5-1000m ⑤1:00.0-1200m ⑥1:12.4-1400m ⑦1:24.7-1600m ⑧1:36.2-1800m ⑨1:47.7-2000m ⑩1:59.2

優勝馬 **クロノジェネシス**
2016.3.6生 父バゴ 母クロノロジスト 母の父クロフネ
安平・ノーザンファーム生産 馬主:(有)サンデーレーシング